

---

# 男女共同参画社会づくりのための市民意識調査 報告書(概要版)

---

令和3年5月

宮崎県 日向市

日向市は持続可能な  
開発目標（SDGs）を  
支援しています。

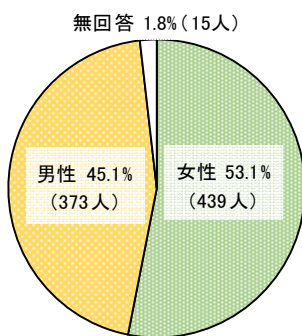


## ◆ 調査の概要 ◆

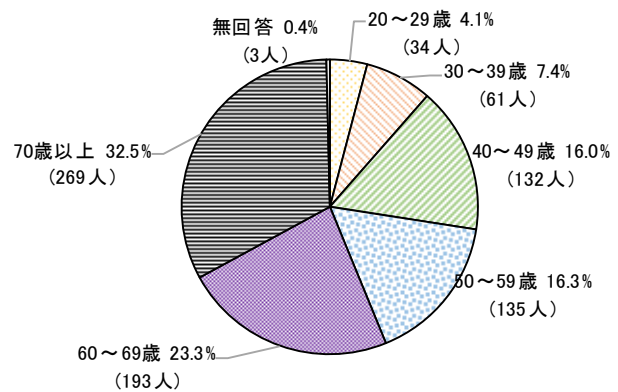
- 調査の目的 日向市における男女共同参画に関する意識と実態を統計的に把握し、今後の男女共同参画施策の一層の推進を図るための基礎資料を得ることを目的として実施しました。
- 調査対象 日向市在住の20歳以上の男女2,000人(男女各1,000人) 無作為抽出
- 調査方法 郵送配布・郵送回収
- 調査時期 令和2年9～10月
- 回収状況 有効回収数:827人(有効回収率:41.4%)

性別

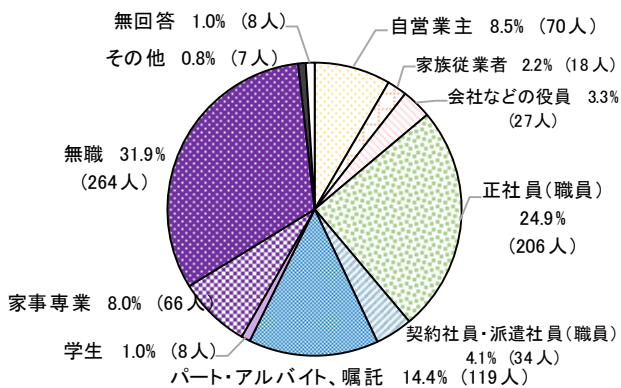
【総数827人】



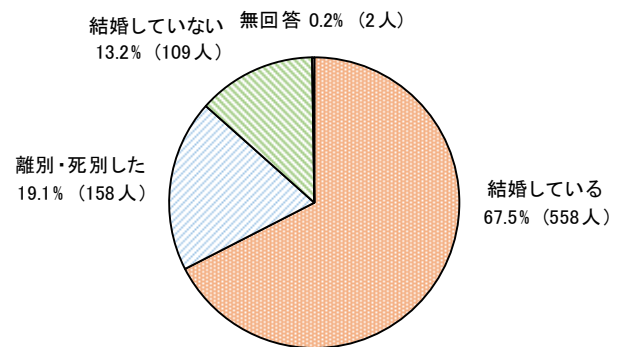
年齢



雇用形態



婚姻状況



➤ 調査全項目一覧

分類	問	調査項目
1. あなた自身について	1～6	性別・年齢・家族構成・雇用形態・婚姻状況・配偶者の雇用形態
2. 男女平等意識について	7～9	男女の役割分担意識についての考え方
	10	男女共同参画に関する言葉の認知度
	11	男女の平等感
	12	男女平等になるために必要なこと
3. 家庭生活に関すること	13	家庭生活での夫婦の役割分担状況(現実と理想)
	14	子育てについて
4. 仕事と生活の調和(ワークライフバランス)について	15	仕事と生活のバランスの希望
	16	仕事と生活のバランスの現状
	17	男性が家事、育児を行うことへのイメージ
	18	仕事と生活の両立のために必要なこと
5. 就業について	19	職場での男女差
	20	女性の就業についての意識
	21	女性が就業継続のさまたげになっていること
6. 女性の社会進出について	22	政治や行政への女性参画が少ない理由
	23	女性のリーダーが増えると起こる影響
	24	男性の育児休業取得について
7. 人権への配慮について	25	セクシャル・ハラスメントについて
	26	女性特有の事柄や言葉についての意識
	27	配偶者等からされた経験、配偶者等へした経験
	28	配偶者等からの暴力を受けた時の相談先
	29	配偶者等からの暴力についての意識
8. 男女共同参画施策について	30	日向市男女共同参画推進条例の認知度
	31	SDGs内の目標「ジェンダー平等を実現しよう」の認知度
	32	「さんぴあ」の認知度と利用経験の有無
	33	市が推進すべき男女共同参画施策について

➤ 本概要版に記載する質問一覧

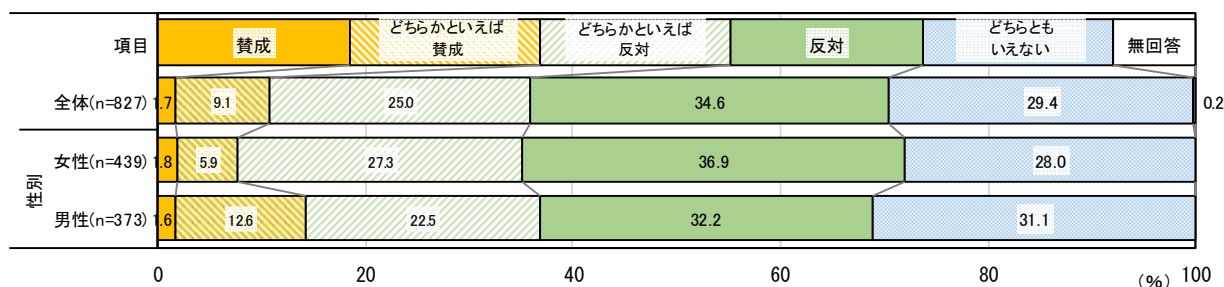
質 問	頁
「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」といった性別によって役割を固定する(決めつける)考え方について、どう思いますか。	P4
あなたは、各分野において、男女はどの程度平等になっていると思いますか。	P4
「今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、特に必要だと思うことはどんなことですか。	P5
あなたのご家庭では、家庭内の仕事を、主にどなたが行っていますか。	P5
あなたは、男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。	P6
仕事と家庭生活または区・公民館活動やボランティアなどの地域活動をどのように位置づけるのが望ましいと思いますか。	P7
あなたの職場では、各場面で、性別によって差があると思いますか。	P7
女性も男性も仕事と家庭生活・地域活動の両立ができるようにするためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。	P8
あなたは、女性が働き続ける上で、特に問題やさまたげになっていることは何だと思いますか。	P8
宮崎県の令和元年度の労働条件等実態調査によると、女性の育児休業取得率が91.8%であるのに対し、男性は10.2%と低い水準となっています。男性の育児休業取得率が低い理由は何だと思いますか。	P10
あなたは、夫や妻または恋人から暴言や暴力などをされたこと、したことがありますか。	P10
あなたは、配偶者間(夫から妻、妻から夫)や恋人同士で、どのようなことがあった場合、それを暴力だと思いますか。	P11
市では、男女共同参画社会づくりの拠点として日向市男女共同参画社会づくり推進ルーム「さんぴあ」を設置し、事業を行っています。日向市男女共同参画社会づくり推進ルーム「さんぴあ」の認知度について、教えてください。	P12
男女共同参画社会の実現には、市としてどのようなことに取り組むと良いと思いますか。	P12

# I 男女平等意識について

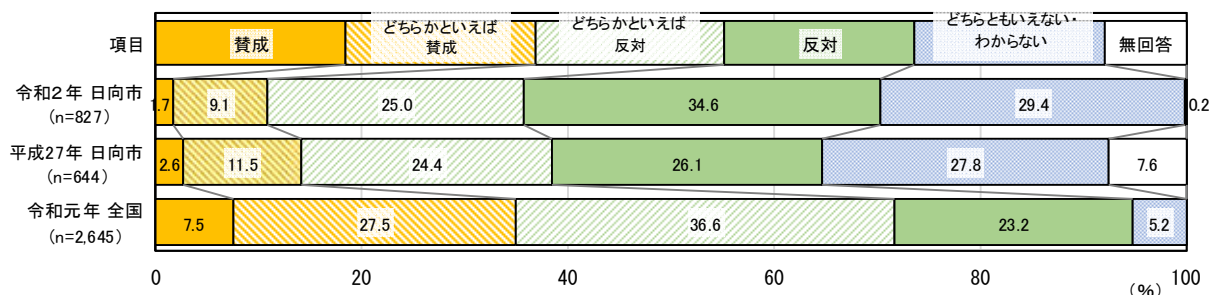
## 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考え方に反対する人が約 6 割

問 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」といった性別によって役割を固定する(決めつける)考え方について、どう思いますか。

- 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」といった性別によって役割を固定する(決めつける)考え方については、「賛成、どちらかといえば賛成」が10.8%、「反対、どちらかといえば反対」が59.6%となり、前回調査(平成 27 年度)と比較すると、賛成派が3.3ポイント減少し、反対派が9.1ポイント増加しています。
- 性別でみると、男女ともに「反対」の割合が高く、女性が64.2%、男性が54.7%、となっており、男女で意識の差が見られます。



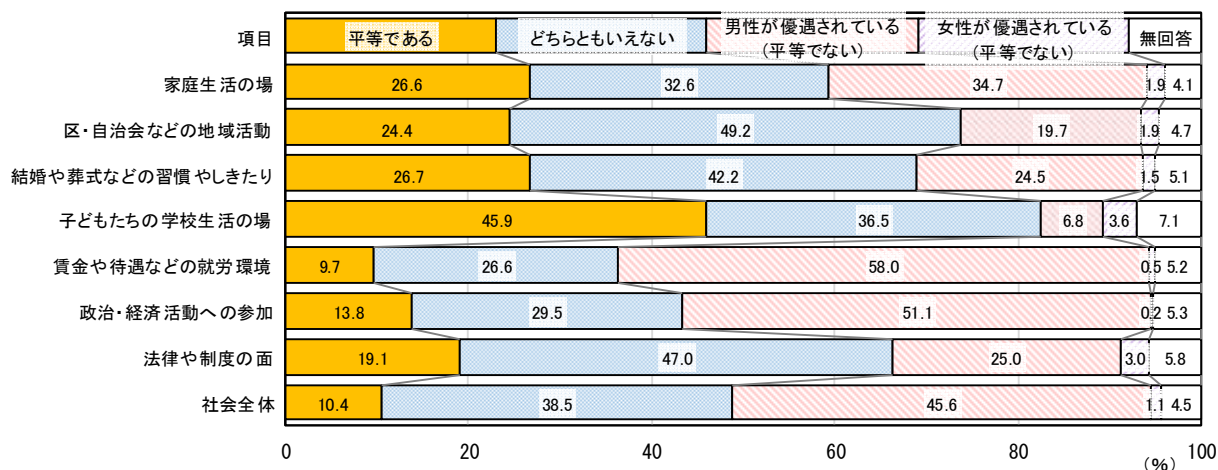
### [参考] 前回調査と全国データとの比較



## 各分野における男女の平等感は、「学校生活の場」以外は男性の優遇感が強い

問 あなたは、各分野において、男女はどの程度平等になっていると思いますか。

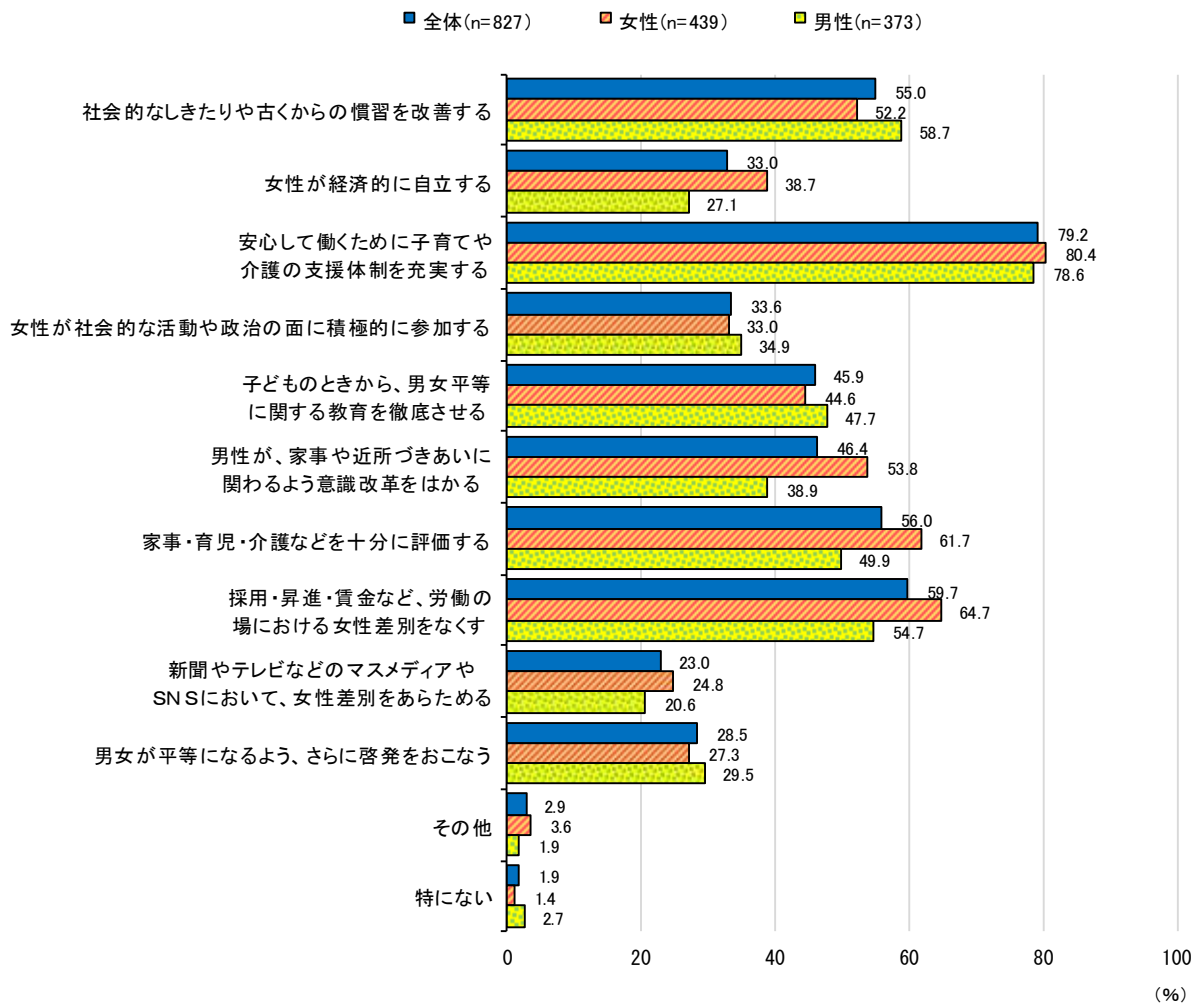
- 「平等である」と回答した割合が最も高かった分野は、「子どもたちの学校生活の場」で45.9%、一方、最も少なかったのは、「賃金や待遇などの就労環境」で9.7%となり、分野ごとに大きな差が出ています。
- 社会全体では、「平等である」が10.4%、「男性が優遇されている」が45.6%、「女性が優遇されている」が1.1%と女性を取り巻く環境の厳しさが伺えます。
- また、全ての分野において、「女性が優遇されている」との回答は4%以下となっています。



## 男女があらゆる分野でもっと平等になるためには「子育てや介護の支援体制の充実」が必要

問 「今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、特に必要だと思うことはどんなことですか。

- 「安心して働くために子育てや介護の支援体制を充実する」と回答した人が79.2%と最も高くなっています。
- 男女認識の差が大きかった分野は、「男性が、家事や近所づきあいに関わるよう意識改革をはかる」で14.9%の差、続いて「家事・育児・介護などを十分に評価する」が11.8%の差となっています。

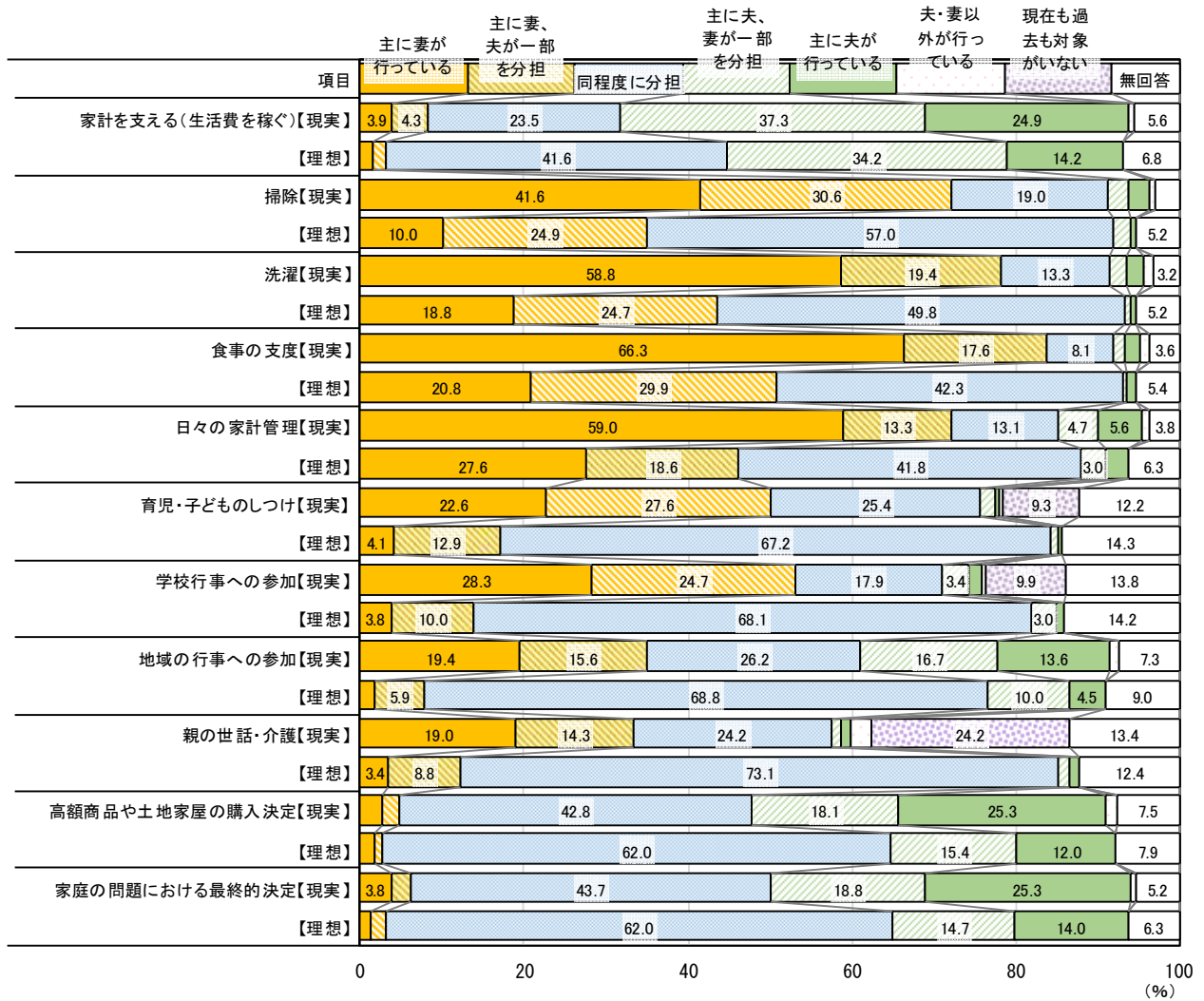


## II 家庭生活に関すること

「掃除」、「洗濯」、「食事の支度」、「日々の家計管理」は、妻が7割以上負担しており、理想とは大きく乖離

問 あなたのご家庭では、家庭内の仕事を、主にどなたが行っていますか。

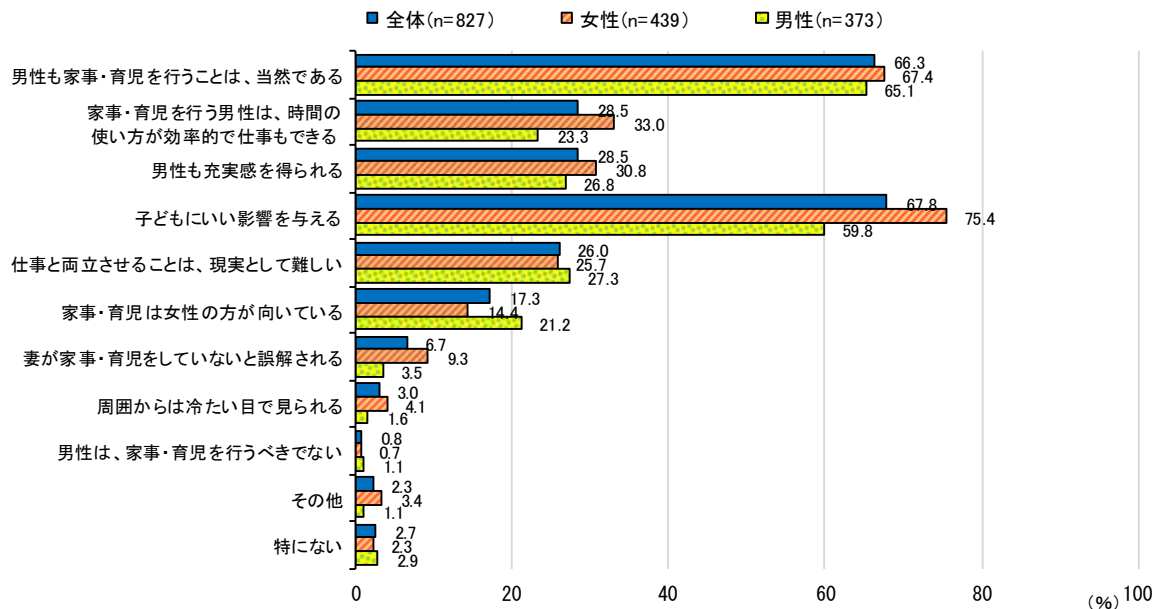
- 家計を支える(生活費を稼ぐ)は、「主に夫、妻が一部を負担」、「主に夫」が62.2%、一方、「夫、妻とも同程度」を理想とするは41.6%で、現実と理想に大きな差が見られます。
- 洗濯は、「主に妻」、「主に妻、夫が一部を負担」が78.2%、食事の支度が、「主に妻」、「主に妻、夫が一部を負担」が83.9%となり、家事の負担については、女性側に大きく偏っている現実が浮き彫りになっています。



## 6割以上の方が、「男性が家事・育児を行うことは当然である」と回答

問 あなたは、男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。

- 「子どもにいい影響を与える」と回答した人が67.8%と最多。次いで、「男性が家事・育児を行うことは当然である」が66.3%となりました。
- 男女別では、「子どもにいい影響を与える」と回答した女性は75.4%であったのに対し、男性は59.8%で、15.6%の差が見られ、男女間の意識に差があることが伺えます。
- また、26.0%の人が「仕事と両立させることは現実として難しい」と回答しています。

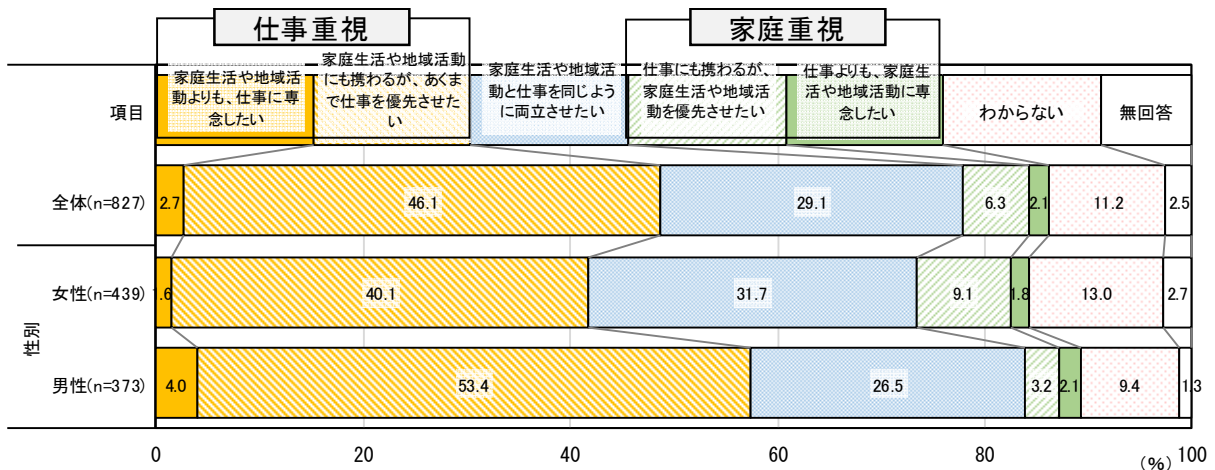


### Ⅲ 仕事と生活の調和(ワークライフバランス)について

男性の方が仕事重視の傾向が強い。約3割の人が「家庭・地域活動と仕事の両立」を希望

問 仕事と家庭生活または区・公民館活動やボランティアなどの地域活動をどのように位置づけるのが望ましいと思いますか。

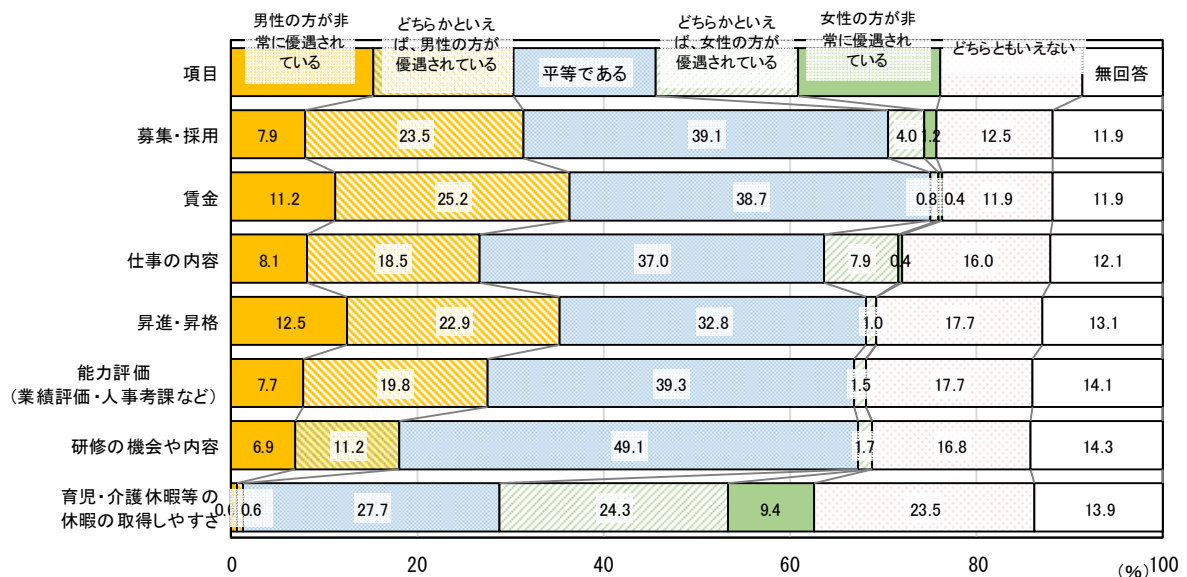
- 全体の48.8%が「仕事重視」と回答し、「家庭重視」は8.4%となりました。
- 「仕事重視」については、女性が41.7%であったのに対し、男性は57.4%と、15.7%の差が見られました。
- 「家庭重視」とした人は女性が10.9%であったのに対し、男性は5.3%と、倍以上の開きがありました。
- 全体の29.1%が「家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させたい」と考えています。



職場において、「研修の機会や内容」はほぼ平等、「賃金」や「昇進・昇格」では男性優遇

問 あなたの職場では、各場面で、性別によって差があると思いますか。

- 「研修の機会や内容」は、49.1%が平等であると回答しています。
- 「賃金」では「男性の方が非常に優遇」が11.2%、「どちらかといえば男性が優遇」が25.2%と、男性が優遇されていると感じている人が全体の36.4%となっています。
- 「昇進・昇格」では、「男性の方が非常に優遇」が12.5%、「どちらかといえば男性が優遇」が22.9%と、全体の35.4%が男性が優遇されていると感じています。
- 「育児・介護休暇等の取得しやすさ」は、「女性の方が非常に優遇」が9.4%、「どちらかといえば女性が優遇」が24.3%と、全体の33.7%が女性が優遇されていると感じています。

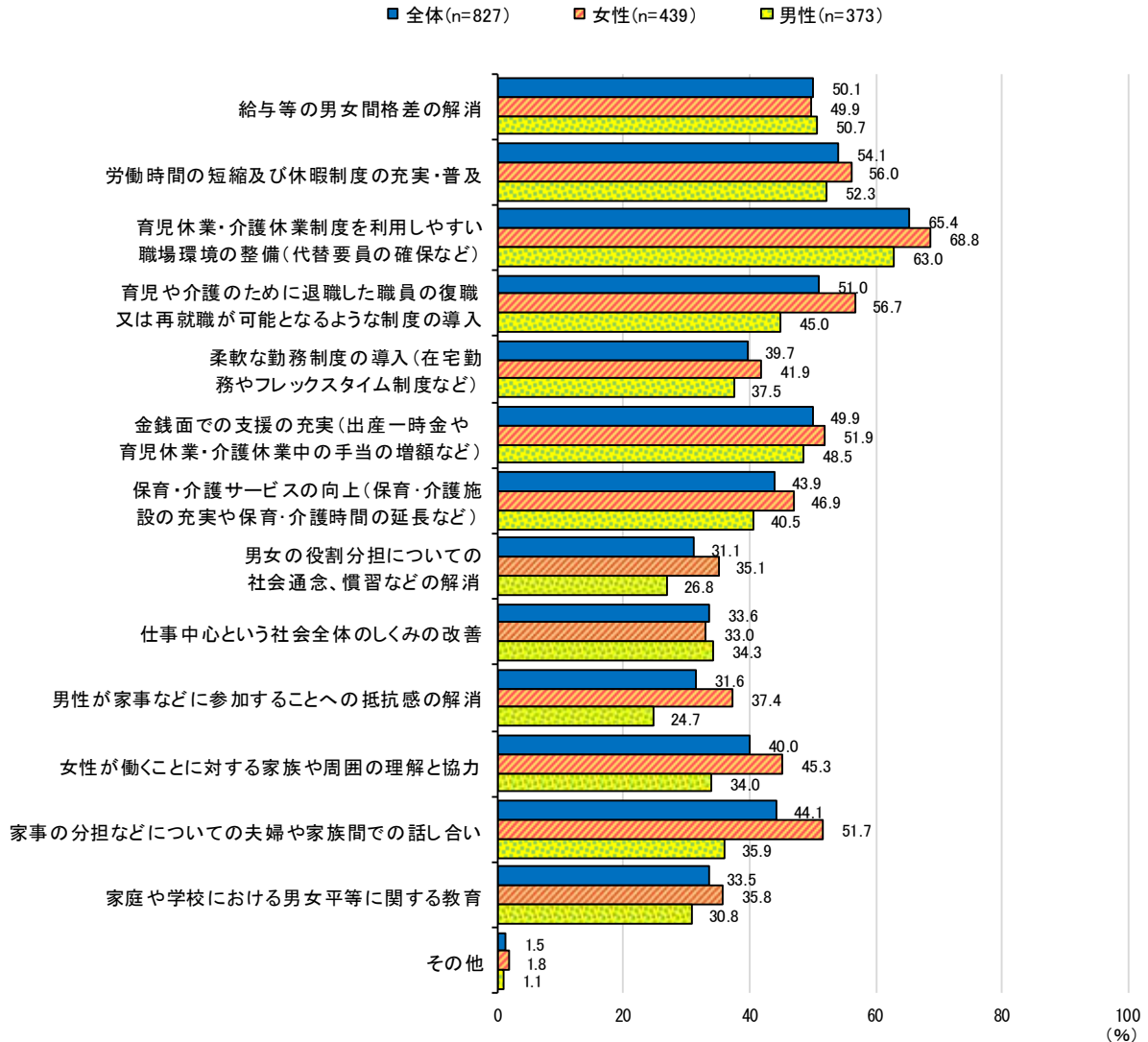




仕事と家庭生活等を両立するために、6割以上の人が「各種休業制度を利用しやすい職場環境の整備」を希望

問 女性も男性も仕事と家庭生活・地域活動の両立ができるようにするためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。

- 全体の65.4%が「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備(代替要員の確保など)」が必要と回答しています。男女別では女性が68.8%、男性が63.0%と回答しています。
- 男女の考え方の差が最も大きかったものは、「家事の分担などについての夫婦や家族間での話し合い」で、女性が51.7%、一方、男性が35.9%、男女差は15.8%となっています。

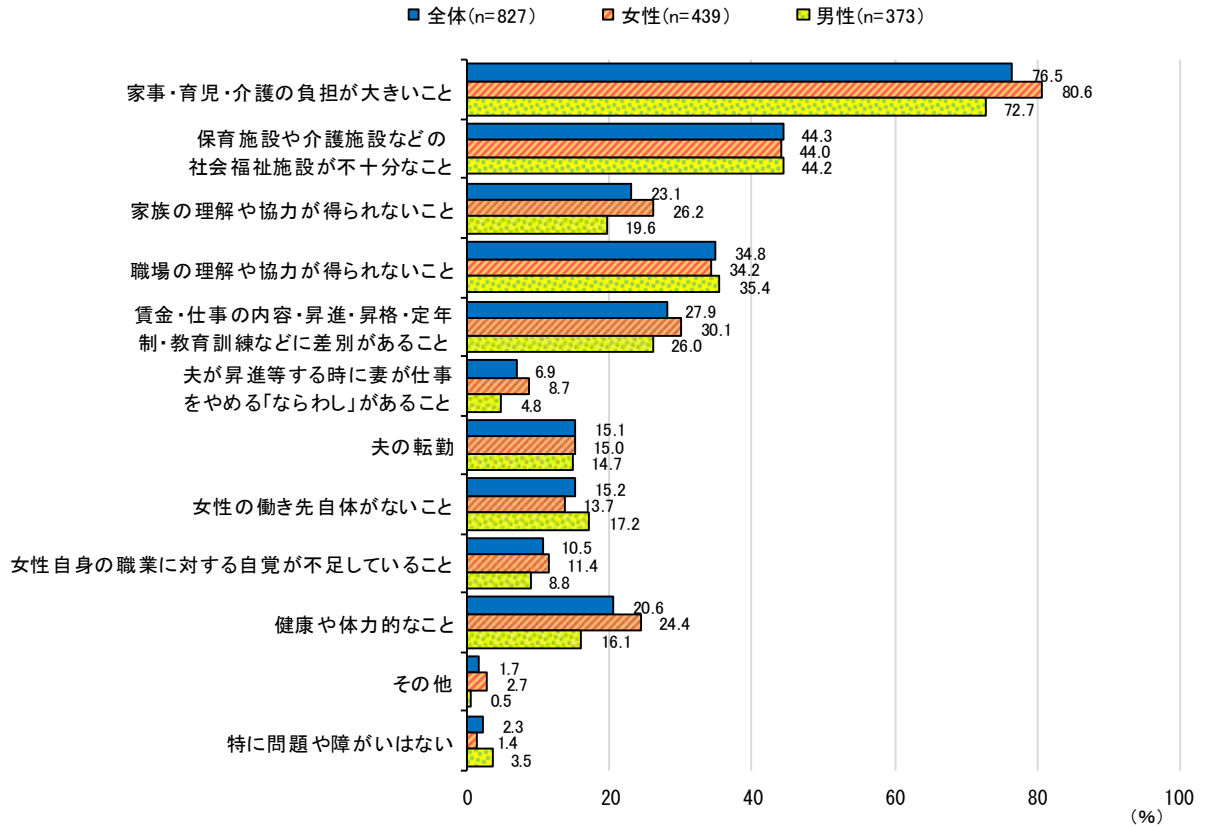


女性が働き続けるうえでの問題は、約8割の人が「家事・育児・介護の負担が大きいこと」と回答

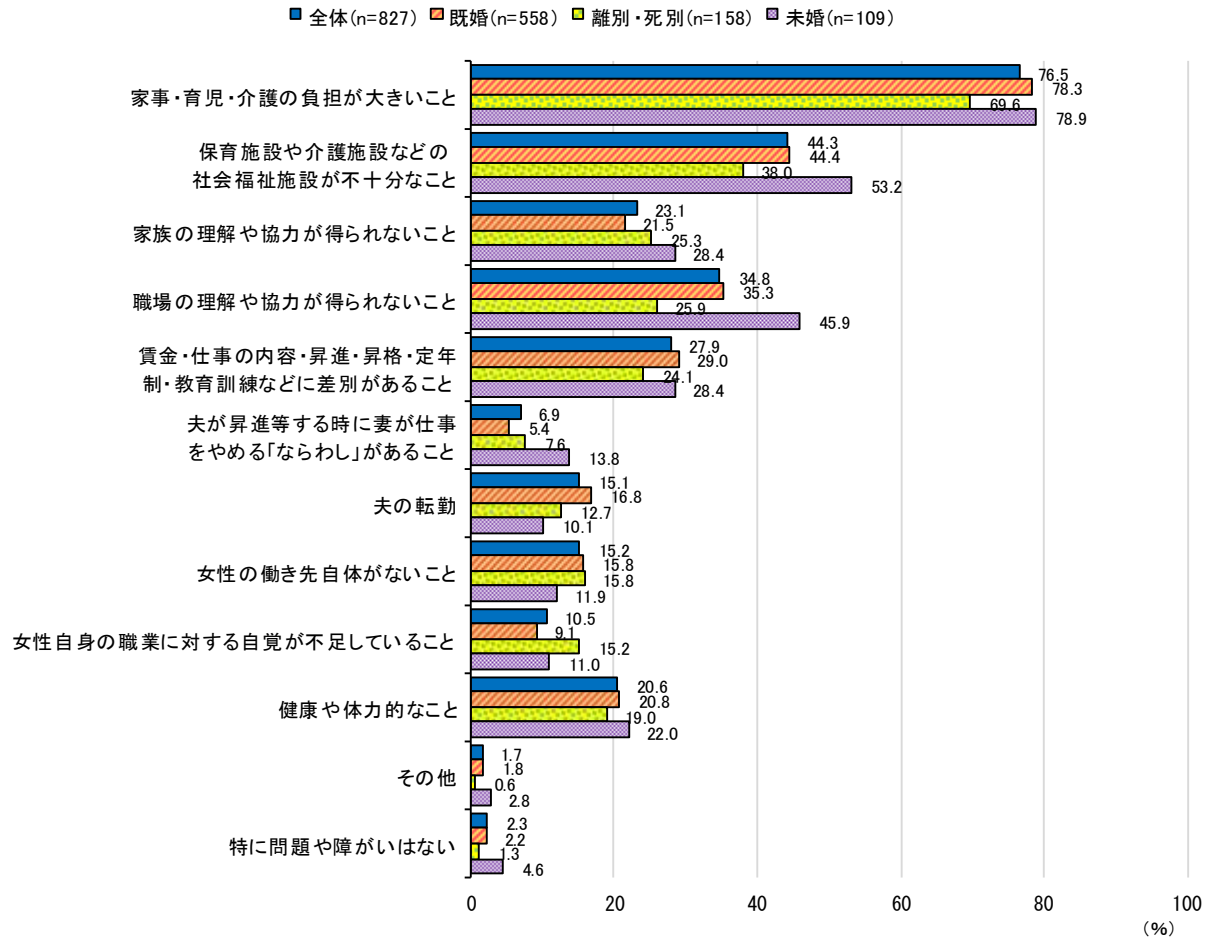
問 あなたは、女性が働き続ける上で、特に問題やさまたげになっていることは何だと思いますか。

- 全体の76.5%が、「家事・育児・介護の負担が大きいこと」と回答しています。男女別では、女性が80.6%、男性が72.7%となり、考え方に差があります。
- 続いて、全体の44.3%が「保育施設や介護施設などの社会福祉施設が不十分なこと」と回答しています。
- 婚姻状況別の未婚者の回答では、「家事・育児・介護の負担が大きいこと」が78.9%、「保育施設や介護施設などの社会福祉施設が不十分なこと」が53.2%、「職場の理解や協力が得られないこと」が45.9%となっており、これらの要因が婚姻にも影響を及ぼしていることが考えられます。

## 全体 性別



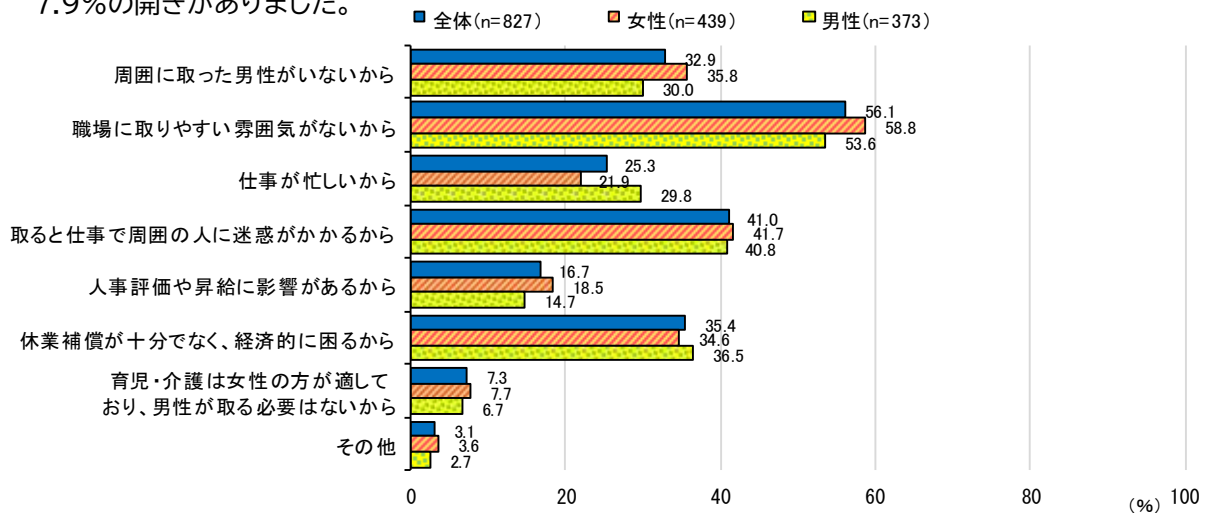
## 全体 婚姻状況別



## 男性の子育ち休業取得率が低い理由は、半数以上の人々が「職場に取りやすい雰囲気がないから」と回答

問 宮崎県の令和元年度の労働条件等実態調査によると、女性の子育ち休業取得率が91.8%であるのに対し、男性は10.2%と低い水準となっています。男性の子育ち休業取得率が低い理由は何かと思いますか。

- 全体の56.1%が「職場に取りやすい雰囲気がないから」と回答しています。次いで、「取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから」が41.0%、「休業補償が十分でなく、経済的に困るから」が35.4%となっています。
- また、「仕事が忙しいから」は、女性が21.9%であったのに対し、男性は29.8%となっており、7.9%の開きがありました。

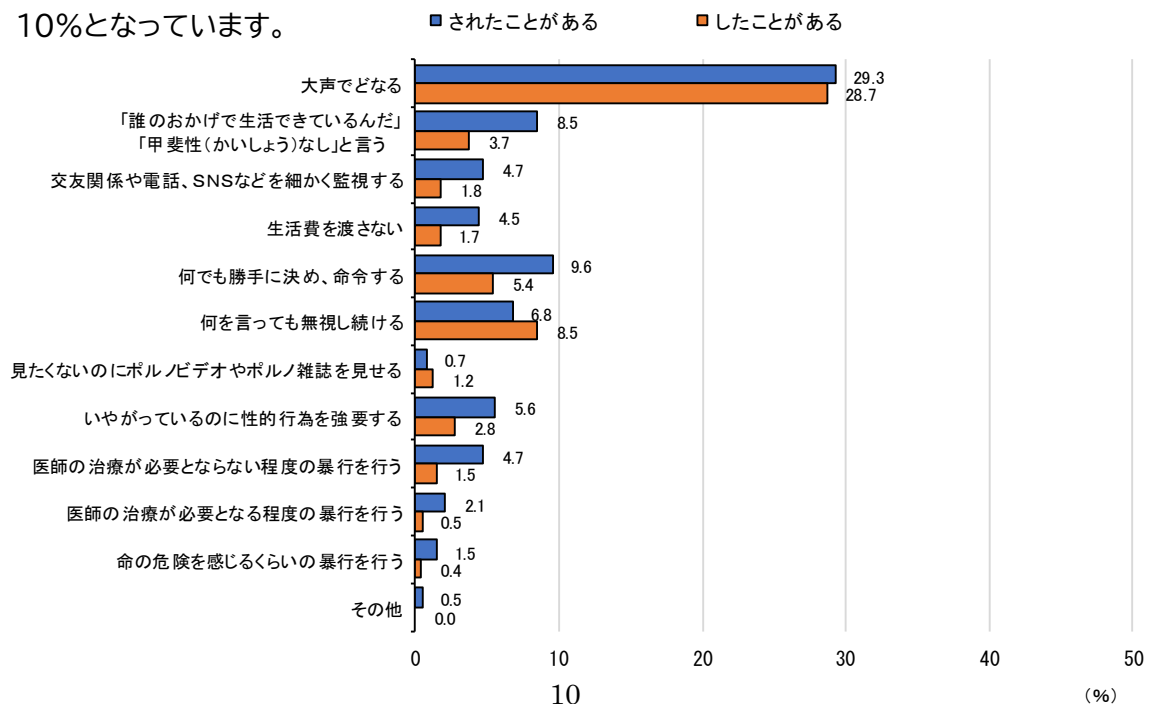


## IV 人権への配慮について

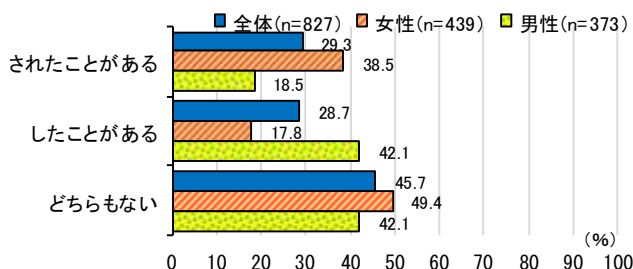
### 「夫や妻、恋人からの”大声でどなる”」は、約3割が「したことがある」「されたことがある」

問 あなたは、夫や妻または恋人から暴言や暴力などをされたこと、したことがありますか。

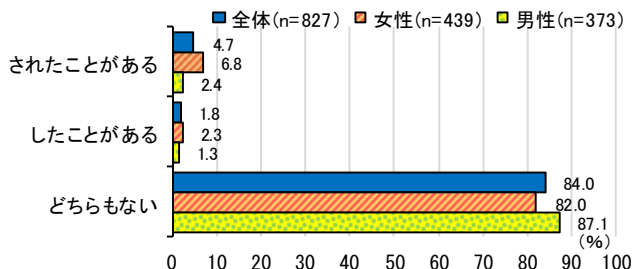
- 「大声でどなる」は、「されたことがある」が29.3%、「したことがある」が28.7%となっています。
- 全ての不当行為において、「されたことがある」は女性が多く、男性が少ない傾向があります。
- 「交友関係や電話、SNSなどを細かく監視する」は、「されたことがある」女性が6.8%となっています。
- 「何でも勝手に決め、命令する」は、「されたことがある」9.6%、「したことがある」が5.4%となっています。
- 「いやがっているのに性的行為を強要する」は、「されたことがある」が5.6%で、女性全体では10%となっています。



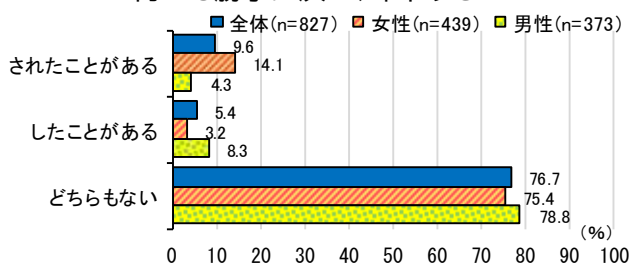
### 大声で怒鳴る



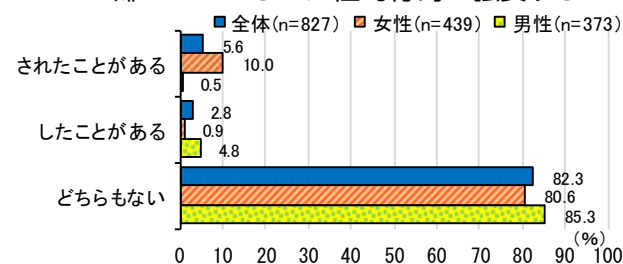
### 交友関係や電話、SNS を細かく監視



### 何でも勝手に決め、命令する



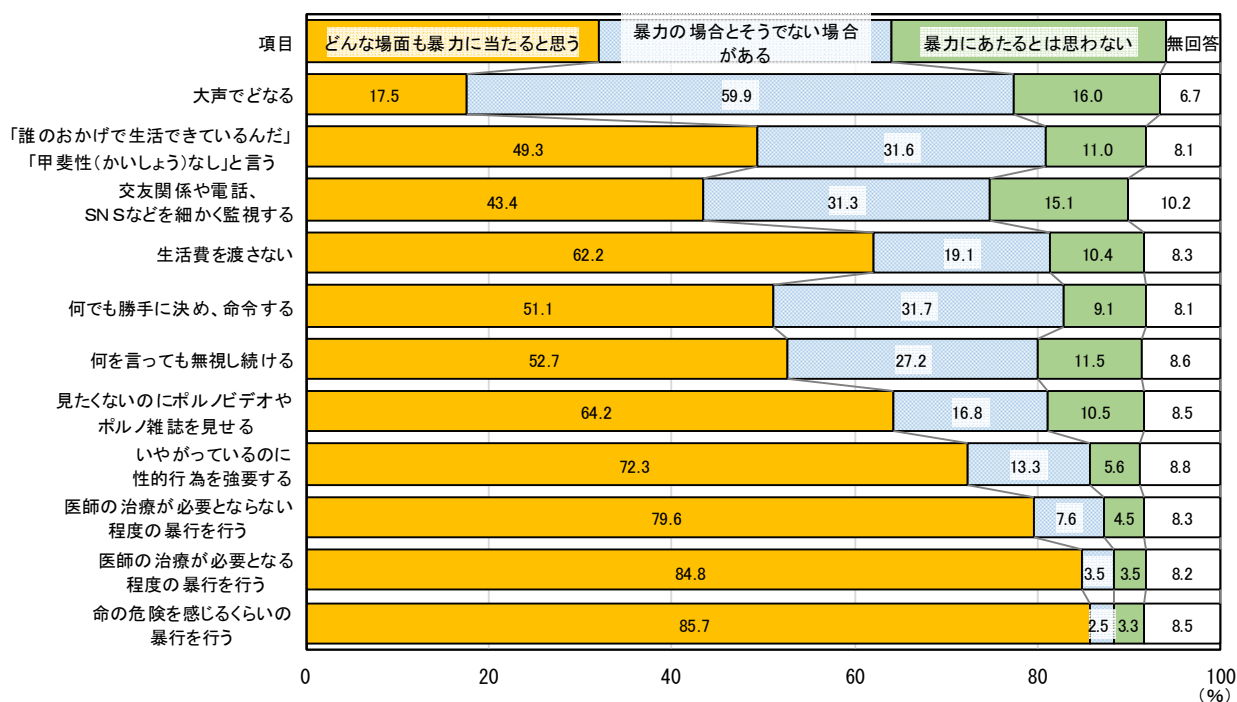
### 嫌がっているのに性的行為を強要する



夫婦間や恋人間の暴力は、直接身体に及ぶ行為ほど暴力と認識されているが、言葉の暴力など精神的な暴力は、暴力の場合とそうでない場合があると感じている割合が高い。

問 あなたは、配偶者間(夫から妻、妻から夫)や恋人同士で、どのようなことがあった場合、それを暴力だと思えますか。

- 「大声でどなる」は、59.9%の人が「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答しています。
- 「どんな場面も暴力に当たると思う」は、身体的な暴力のほか「生活費を渡さない」、「何でも勝手に決め、命令する」、「何を言っても無視し続ける」など精神的な苦痛を伴うことも該当すると回答した割合が高くなっています。
- 「大声でどなる」、「交友関係や電話、SNSなどを細かく監視する」については、「暴力にあたるとは思わない」と考えている人が15%超となっています。

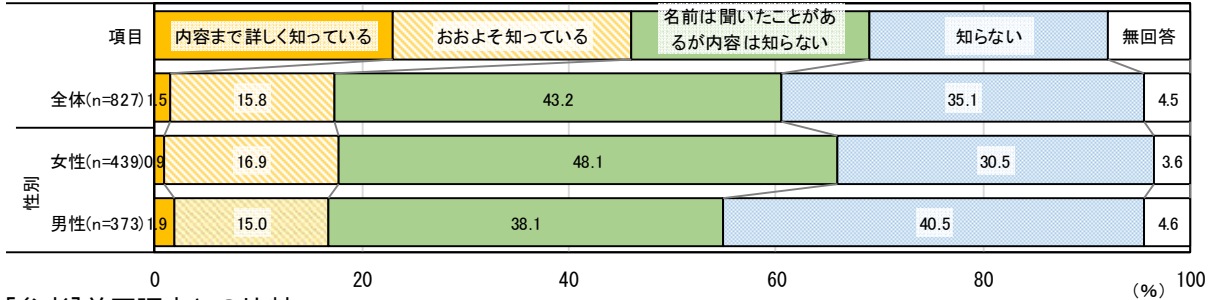


## VI 男女共同参画施策について

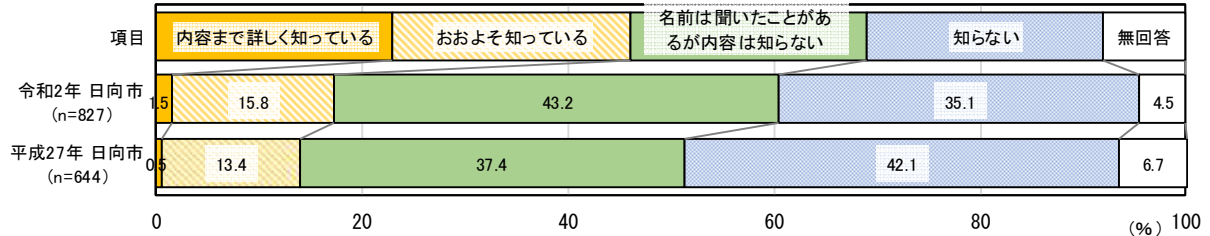
### 日向市男女共同参画社会づくり推進ルーム「さんぴあ」の認知度は微増

問 市では、男女共同参画社会づくりの拠点として日向市男女共同参画社会づくり推進ルーム「さんぴあ」を設置し、事業を行っています。日向市男女共同参画社会づくり推進ルーム「さんぴあ」の認知度について、教えてください。

- 「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」が全体の43.2%となりました。
- 前回調査(平成27年)と比較すると、認知度が3.4ポイント増となっています。



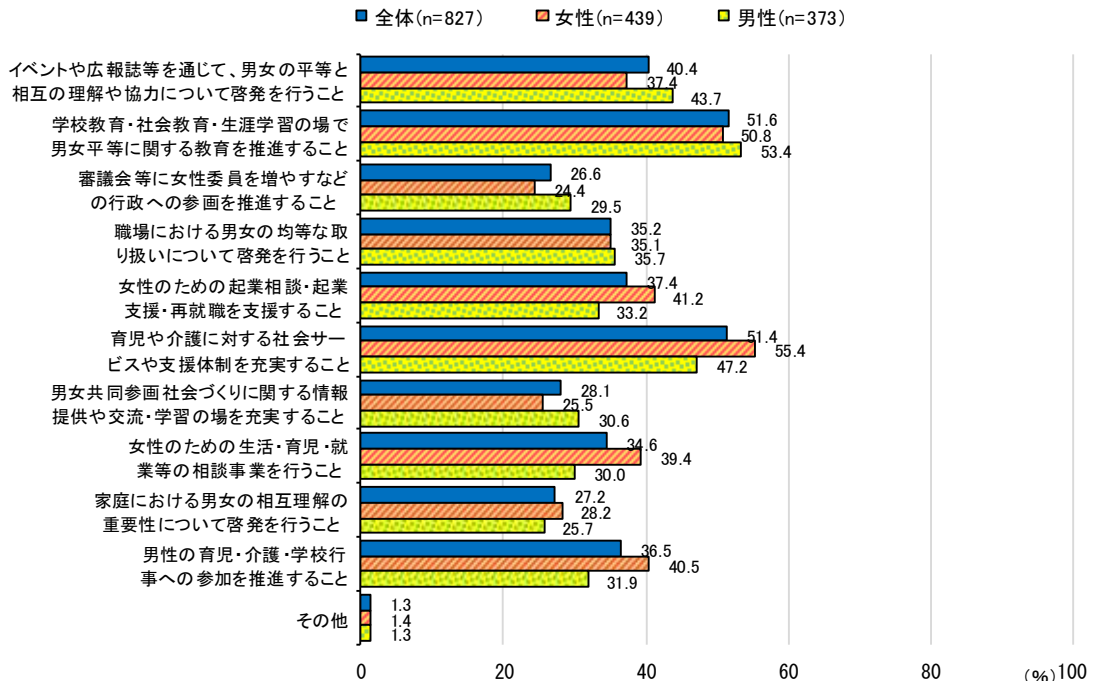
#### [参考] 前回調査との比較



### 男女共同参画社会を実現するために、5割以上の人が「男女平等に関する教育の推進」を希望

問 男女共同参画社会の実現には、市としてどのようなことに取り組むと良いと思いますか。

- 「学校教育・社会教育・生涯学習の場で男女平等に関する教育を推進すること」を希望する割合が全体の51.6%で最多となっています。
- 男女差が大きかった対策としては、「女性のための生活・育児・就業等の相談事業を行うこと」で、女性が39.4%、男性が30.0%、男女差は9.4%、次いで「育児や介護に対する社会サービスや支援体制を充実すること」が女性が55.4%、男性が47.2%で、男女差は8.2%となっています。



男女共同参画社会づくりのための市民意識調査報告書(概要版)  
令和3年5月  
日向市総合政策部 総合政策課 男女共同参画推進室  
〒883-8555 日向市本町 10 番 5 号